

企業の中の川柳2

特集・川柳ブームの検証③

インターネットのチャットを使って、リアルタイムで投句、そして披講。そう、これらは入選句は全世界に向けて発信されるもの。また、学校では生徒が川柳を作っている。これも一昔前では考えられないこと。

こんな川柳新時代を創っているのは企業・団体が仕掛けているCM川柳なのである。そんな時代の最先端を行くこれら川柳をいち早く取り入れた企業川柳の今を探る。

川柳の新しいカタチは 企業川柳がつくる！

企業川柳担当者の気になるひと言
「学校単位での応募が増えている」

川柳が学校の授業で取り上げられることは少ないし、テストには出ることもない悲しき文芸とまで言われている。だから学歴社会で育つ学生らは、川柳を学ばないし興味も持たない。もし習っていたら、「江戸時代後期に柄井川柳という人

がはじめた文芸」という説明くらいのもので、正直、泣きたくなる。なぜ教えないのか。教師の手に余るのか、それとも取り上げる必要がないと見なされているのか。疑問だ。それにも拘わらず、

「学校へ募集をはたらきかけています。夏休みの宿題として実施されることが多いようなので、休み明けにとっと作品が

集まるのではないかと期待しています」と、年間を通して川柳募集を行なっている旭川市記念事業担当者の向井正幸氏が語るように、「ここ数年、企業や行政の川柳募集に学校単位で応募するケースが目立ってきている。

世に出回る新しい五七五のリズムに洗脳されているのか、「川柳」という字が読めない学生すらも、知らず知らずのうちに川柳が体に沁み込んでいっているのだ。それが証拠に、本誌のジュニア柳壇も年々投句数が増え、レベルも上がっている。

「これからの時代の流れは、子どもたちが作る。たとえば賞品が目的でも、まずは作ってみる。企業川柳はそのきっかけを与えてくれているのだ。子どもたちが川柳に触れ、その魅力を知る。そこから川柳の未来は開けてゆくのだ。」

「電子メールでの応募が増えている」

インターネットの普及にともない驚

異的なスピードで増える電子メールでの投句。今回お話を伺った企業の中にも、電子メールでの投句やホームページ上での募集告知・入選句発表を取り入れているところは多い。このことについて、「JAF MATE」の上條謙二氏は次のように語る。

「メールで応募される方は、斬新な感覚で句を作られる傾向があるようです。パソコンのユーザーに若い方が多いことが原因かもしれません。」

若い世代への働きかけとして、インターネットは大きな影響力をもっているようだ。(株)フレンテは昨年「お台場、パフォームス大会」でコンピュータを活用し、リアルタイムで「ピンキー川柳」の募集、発表を行なった。担当者の中山和久氏は、イベントの様子をこう振り返る。

「お台場に来られない人にも参加してもらいたいと思い、伝言板を設けてリアルタイムで川柳を募集、発表しまし

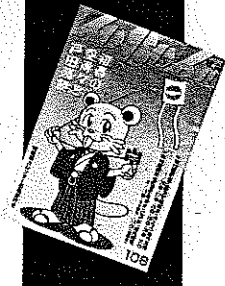
た。正直言って、『ピンキー』のみを題材に、約百句の応募があったことは驚きでした。伝言板も大変盛り上がりました。はじめるまでは、どのくらい作品が集まるか予想もつかなかったのですが、やってみないと分からないものです。」

インターネット句会では披講の雰囲気を楽しむ。味気ないと思われる方もいる。しかし、「川柳を楽しむたいけれど、句会に参加できないし、機会がない」という方たちに大きく門戸を開いたことは事実。また、これからはインターネット句会が主流になっていくと予想し、活用する川柳作家も少なくなはない。

これまで川柳に関心をもつことが少なかった若い年代の人たちを川柳に近づけ、インターネットの普及に目を付けて川柳の新しいカタチを創りだした企業川柳。その可能性ははかりしれない。次は一体どんな仕掛けを用意しているのか。川柳界の未来をも担う企業川柳から目が離せなくなりそうだ。【編集部発表】

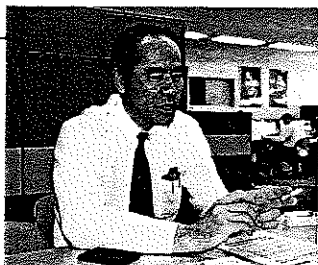
社内提出
終了

戸田競艇場 「フライイング川柳」



スタート事故防止に川柳が大活躍！

平成五年、戸田競艇の年間フライング数が八十五本で全国フーストワンに。選手の反省を促しスタート事故を少なくする願いを込めて、この年からフライングした選手に川柳をかかせた。それまで書いていた始末書では堅苦しいので、紙と鉛筆を渡して川柳を翌朝に提出してもらったのだ。



競艇の魅力を熱く語る薄葉清治氏。

競艇は六名による先手必勝、スタートが勝負のレースといわれるだけあって、選手のフライング事故が絶えない。フライングすると舟券

の金額を客に返還しなくてはならないので、経営側の大きな損失につながる。

戸田競艇組合事業課課長補佐の薄葉清治氏は「お客様に楽しんでいただくよう施設を新しくしたりイベントをしたりしているのに、フライングで返還することは死ぬほどつらい」と語る。つらいのは選手も同じで、一本のフライングで三十日間の出場停止が命じられる。三本切ると九十日、年間開催

期間が一八〇日なので、半分以上の選手生活がパーに。選手にとって最大の罰となる。

競技課の職員が選んだ川柳はA4判の白い紙にプリントされ、競技地区のプロペラ修正室や競技場の踊り場に貼り出される。掲示板上張られたユーモア溢れる川柳を見、他の選手が思わず吹き出す場面も。実際フライングしてしまった選手は、自分の川柳を見てもう二度と切るものか、と誓うわけだ。

「他の競艇場にはないユニークな試みだと思います。」と語るのは社団法人埼玉県モーターボート競走会連合会競技課・川上健三



『航跡』誌と実際に貼り出された川柳。

氏。「フライング直後なので、選手がイマイヤ書いている作品中にはある。あきらめの心境や切実な思いを託した句も多いです。」
——ところが実際にフライングは減ったのか？

効果については「選手はレースになると勝つことしか考えないですからね。なかなか川柳だけでは効かないのも事実です(笑)」と川上氏。

全国に六千万人ともいわれる競艇ファン。登録選手は一六〇〇人。全国に二十四ある競艇場でも戸田競艇場は三指に入る売り上げを誇る。

● Data

お題 選手の反省を促しスタート事故を少なくする願いを込めて、フライング



笑顔が素敵なお川上健三氏。

「フライング川柳」
向かい風安心したら切っちゃった
S勝負かけたその時地獄行き
フライング自信失くすぞ金失くす
平成10年9月
平成9年1月
平成8年7月

要項 した選手に川柳を書かせた。

平成年から平成十一年三月末まで。基本的に一人三句提出。男女問わずフライングした競艇選手。選手の年齢層は十九〜六十二歳までと広範囲。

競技課の職員。A4判の白い紙にプリントされ、競技地区のプロペラ修正室や競技場の踊り場に張り出された。掲示期間は約半年。掲示板上に張ることでの他の

選手への抑止力になればという願いをこめて(笑)。(川上氏)

その他年六回発行の戸田競艇ファン友の会機関誌『航跡』に「航跡川柳コーナー」があった。押しつけてないファンとのコミュニケーションを目的に五、六年間続いたが、借しくも平成十二年春で終了。「黄金王」「引き波」「逆転」など、いかにも、なテーマが出題される。選考は「航跡」発行委員で、毎回六句を掲載していた。

一般公募
株式会社コムスントラベル
「お風呂で一句」

湯舟から生まれる名句の数々！

株式会社コムスントラベルは「高齢者の尊厳と自立を守る」を理念とし、厚生省から日本ではじめて二十四時間巡回介護モデル事業者として指定され、在宅介護サービス大

手のコムスングループ内の高齢者社会費用の旅行业协会。従来のパッケージ旅行では不可能だったヘルパー同行旅行や医療介助つき旅行を専門に取り扱っている。

平成十二年四月から導入された介護保険制度スタートを記念して、全国キャンペーンを実施。対象は、保険料を払う四十歳以上の被保険者の方々。

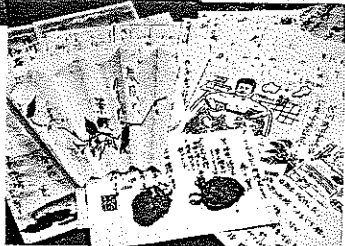
「ムソンの広告展開では高齢者の方々の参加による「生きたメッセージ」を訴求している。「お風呂で一句」もその一環だ。

「高齢者専用旅行サービスの会社として、ウハウとネットワークを活用し今回の名旅館「招待」として全国展開を開始しました」と代表取締役社長 篠塚恭一氏は企画意図を語る。

「最初は社内にも反対意見もありましたが、思いのほか反響が大きいです。折り返しラシを入れ、最初の二日間で一、二



応募ハガキを見る篠塚恭一社長(右)と広報担当の中原智子氏。



投稿者の熱意が伝わってくる応募ハガキ。

「お風呂で一句」
丸き背の流してやれる日々いっし
熱からず冷からずとは湯と夫婦
初風呂に夢のつじきのあれやこれ

信澤美佐子
中井 博幸
塩田 苑子

〇〇句の作品が寄せられました。というこ

とは、お風呂に入る間もなく作ったことになりやすよね(笑)。気軽に参加することで、介護をより身近に感じ、真剣に考えていただくきっかけになればと思っています。

募集する作品は五七五という大きな枠でとらえている。特に川柳や俳句と区切っている

わけではない。中には短歌のように長い作品が寄せられることもあるが、「よい作品なら形式にこだわらねえ」とは篠塚氏とともに今回の企画を担当する広報担当 中原智子氏。

「今までは身近なものではなかったんですが、お客様から心こもったハガキが寄せられて感激しています。優しい言葉で五七五のリズムを合わせていくことはできそうではないことなんですわ」(中原氏)

● Data

お題 湯船に浮かんだ一句、介護保険料を払う四十歳以上の方対象
要項 募集期間は平成十二年四月二十七日～五月末。新聞折り返しラシで全国十一エリアに展開。六月一日現在

選考 四、八二八句が集まった。六十代が一番多く、最高齢応募者は九十九歳。都道府県別応募者数では東京がトップの11.5%。

角谷節子(俳人)／田近米子(俳人)／田丸澄子(刺繍絵画家)／澤の会(代表)／今野三男(団法人全国旅行業協会会長代行)／西城鉄男(メディアプロデューサー)／河合勲(講師)／中谷彰宏(作家・演出家・俳優ほか)。

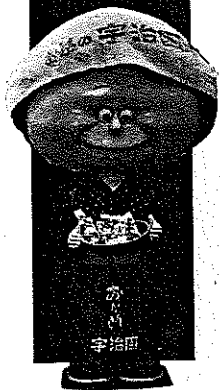
発表 選考委員会による選考の上、発表は七月上旬頃。四十歳以上の方とご家族、または友人を提携温泉旅館に「泊招待」。

その他今後とも続けていきたい、と意欲的。「今回」協力いただいた旅館にお客様の作品を掲示しようと思っております。実現すれば「〇〇旅館に私の句が張られているから行ってみよう」というように、間接的な集客につながるを期待しています。(篠塚氏)



株式会社宇治園
「お茶の川柳」

ホットひと息、なごみの一句を



● Data

お茶をよく飲まれる層と川柳を作られる層が重なるところに目を向け、募集。実際の応募も比較的高い年齢層の方が多い。(株)宇治園の中川龍生氏は普段は作る側からしか捉えていない「お茶」が、会社や家庭などいろいろなシーンでどのように思われているのか、大変興味があったという。

「お客様の立場から見たお茶のイメージや、そこからどんな川柳が出てくるのかがとても楽しみです。」

お題 お茶にまつわる川柳
要項 ハガキに一句(一人何句でも可)、住所、氏名、年齢、職業を明記
告知 『オール川柳』誌上
選考 担当者
発表 『オール川柳』本号
その他 入選者にはお茶のフレゼント。



「お茶の川柳」
【特選】
優しそが溶けて胸まで温いお茶 出口セツ子(大阪府)
【秀作(5句の中から)】
いつ返事らしい美味いお茶が出る 松前 貞子(山口県)